

CHIT CHAT RADIO 子育てCHAT ROOM

2021年11月16日15時13分～15時35分



ゴジラの雄叫び再び！お父さんにも不安や悩みを話す場を！

—鈴木先生、今月もよろしくお願ひいたします。

(す) よろしくお願ひします。

—そして、今月もスタジオにはこの方にお越しいただきました！

(ゴ) 子ども島のゴジラ君です。よろしくお願ひします。

—よろしくお願ひします。日下先生、前は本当に話したいことがいっぱいありすぎて、話しきれなかったですよね。

—そうですね、子どもが生まれるという過程はご夫婦にとって、幸せの象徴ともいえる瞬間後から子育てに関していろいろなと夫妻の間で思いの違ひがあったり、すれ違ひがあったり、いろいろなトラブルが発生します。そこをどのようなスタンス、どのような思いやりをもって接していけばいいのかなってというようなお話ですけど、まだまだ聞きたいことたくさんあるんですよ。

—そうですね、日下先生はご自身の経験も踏まえながらお話をしてくださっておりますが、時代が変わるとともに子育てのスタイルもずいぶん変わってきたという印象はあります。ですが、どうしても母親に任せがちになるのは、度合ひは変わっても一緒かなど。

—そこですね。まだまだやっぱりお母さんに押し付けちゃうみたいなのところはどうしてもご夫婦の中で出てきてしまうっていうのは鈴木先生、やっぱりありますか？

(す)そうですね。でも、子ども自身がお母さんを求めているところがあるんですよ。赤ちゃん自身が愛着(最も親しい人との絆)を作る相手を決めるのですが、それがお母さんであることが多いのは、やっぱりおっぱいをくれる人だからです。お父さんも寂しいのかもしれないですけどね。赤ちゃんがお母さんに抱っこされたらすぐ泣き止むけど、お父さんに抱っこされても泣き止まないことがありますよね。だから、「やっぱり駄目だ、はい、お母さん」ってなりますよね。お母さんが子どもの世話で忙しくなり、お父さんのことまで見てられないし、お父さんも気が利いて動けないと怒ったり。仕事を一生懸命して帰ってきてても、奥さんがイライラしてるし、孤立感を持つちゃいますよね。お母さんと子どもだけで世界が回ってて、疎外感があって寂しいよねって

話がこの間も出ましたけど。

—(二) 赤ちゃんでも、きょうだいがいる子ってね、一ヶ月ぐらいでよく目を見るんですよ。すごく落ち着いてるわけ。一ヶ月の外來での健診で見させてもらうとね、目を見開いて僕の目をすごく見るの。やっぱり、初めの対応が大事だと思うのね。二〜三歳の子も達は無邪気に赤ちゃんが面白いから寄って行って、触ったりするわけね。それで、赤ちゃんはしっかりと目を見開いて、お互いの目を見るようになるんですよ。そこにアイデアがあると思うのね。お父さんも、もし育休取れるんだったら、そこで赤ちゃんを徹底的に遊んじゃえбайいんだよ。お母さんのようにね、目を見て「お前のこと大好きやぞ」とかって言うの。それでホルモン出ないかもしれないけど、父性はできると思う。これは新しい考え方もしれませんけど、すごく初めのところが大事なんじゃないかな。五、六ヶ月経ってから人見知りしますよね。そうすると扱いにいくたって、お父ちゃんがちょっと難しいと思うから、その前が勝負じゃないかな。これからの新しいお父さんはそういう所を注意してもらおうといいと思うな。

—徹底的に遊ぶ。これはいいヒントをお父さん方に出していただいた感じがしますね。

—そして遊ぶ時は、目を見て遊ぶ。

(二) 目を見て、体を触ってやったり、動かしてやったりして、一緒に遊ぶ。お風呂に入る時も、ただ単に体を丁寧に洗ってあげるだけでなくてね、目を見て、声をかけてあげるってというのが一つのアイデアになるんじゃないかな。

—そうですか。母親はお腹に赤ちゃんがいるのを体感して、出産という痛みも味わうけど、お父さんにはなくて、子どもの誕生に対して実感が湧かないという話が前回でました。でも、生まれてきた後は徹底的に遊ぶというチャンスがお父さんにはあるってことですかね。

(二) そうですね。だから赤ちゃんが壊れやすいから触らないんじゃないやなくて、お父さんも触ればいいんだよ。触ってそれで一緒に遊んじゃえбайいと思ってるね。

—なるほど。その時間を大事にするのと、その後お大袈裟く変わるのにつながりますね。

(二) うん、目の見開き方が一ヶ月で全然違うのね。そういう目を見る赤ちゃんのお母さんに「兄弟いらっしやいますね」って言ったら、「何で分かるんですか？」って聞いてくるからね。

—「われはききうすうへくこでも取り入れてやっつていへんきかいますね。

—今は、一人っ子のご家庭って多いじゃないですか。いろいろな事情で一人の出産にしておこうというご夫婦もいらっしゃると思います。そんな時こそお父さんの出番ですよな？

(二) (三) そうね、そうしたらいいと思うね。新しい育児の方法としてね。教育に関しては心を作る教育と学習する教育と違うと思うのね。赤ちゃんの時は心を作る教育だからね、そこをご両親が関心を示して協力するっていうことは、大事じゃないかなと思いますけどね。

—最近、お母さん、お父さんが詳しい携帯を見る時間がずいぶん増えてきていると思うんですね。ネット上に有益な情報もそうでない情報もいろいろあるんですが、不安になるとどうしても頼ってしまっている時間が増えている。それについてはどう思われますか。

(二) (三) 子どもを見る時間をしっかり作ることです。例えば、ネットで「機嫌が悪い」って調べても、「機嫌が悪い」にも様々な理解の仕方があるわけですよ。本当に悪いのか、程度に悪いのかって。中程度のやつは、ほとんどどうでもいいわけですよ。ネットではその「機嫌が悪い」が病気みたいになっちゃうわけです。それは口頭から子どもを見てないと分からないわけです。ネットに書いてる言葉とその現象がイコールじゃないですからね。参考にするのはいいんですけど、一番大事なのは、子ども自身を見る、自分で見る。その「自分で見る」ってことにもっと自信持つてほしい。なぜかって人間は今まで歴史的にやってきているから。携帯電話とかスマホなくても子育てできてますから。だから、子どもを見る能力は僕らにあるんです。それを信じてやればいい。

—今の言葉ちょっと覚えておきたいですね。しっかりとね。

—そうですね。詳しい答えを探そうとしてしまいます。

(二) (三) だから、そういうお母さんには、僕は育児書もスマホも全部捨てるって言ってる。

—それぐらいの心意気がかかってちゃうございらいかもしれませんね。今の時代どうしても無視して暮らすことはできないですから、有益な情報もたくさんありますよ。

—「機嫌が悪い、泣き止まない」「って入れて答えをネットで探してみたいなね。私もそうしていたと思いますが、答えが結局見つからず、迷宮入りというごときもありますよな。

—答えが見つかった気になってしまいうごときもありますよな。子育て以外でも人生のいろいろなことに関して、すぐ答えを探すとダメな。それらしい答えが出てくるまで、自分で考えるっていう過程を飛ばして納得してしまいうごときのがありますな。

(二) そう、その通り。それが今、一番危ないのね。ゲームを批判するわけではいんだけど、自分で遊びを作る、自分で遊び方を考えるというのが大事なんです。今、与えられるでしょう。だからそれができない。ゲームを作る人にならなくちゃいけないのに、ゲームに喜んで使われることばかり。で、そういうゲームっていうのは、ずっと使うように作られてるからね。だから、人間として生まれたんだから、人間がそのゲームを作るように。それが一番大事。大学生でもそうですよ。問題は解けるんだけど、問題を作れないんですよ。問題集を選ばない。そういう大学生が多いですよ。やっぱりそこは問題だと思えますよね。

—じゃあ、生まれた時から親がそれを子どもに体現して見せていくってことですね。

(二) 一緒にすることね。それはとても大事。

—自分が主体性を持つてね、自分で舵取りをしていくってことですかね。

—そうですね。お父さんにはポイントになる言葉がいっぱいありましたけど、夫婦仲が悪かったりすると子どもに影響が出るなと思うんですね。旦那さんに対して不満があると、そのイライラを旦那さんにぶつけると揉めるから、子どもにぶつけちゃうみたいなのがあるので、やっぱり夫婦仲ってすごく大事だなって思います。

(す) お母さんがイライラしている理由のほとんどは、夫に対してなんじゃないかな。子どもが粗相をすると、これ見よがしにそんなに怒る必要のないのに、怒っちゃうことありますよね。そのイライラの原因は、全部一人で大変なんだという負担感なんですよね。子育ては大変なのに、みんなでやるものなのに、全部一人でやっていると。だから私はスマホから得られる情報にばかり頼るのはよくないけど、ネットを使って人と繋がることで孤立感を軽減するという意味で大事だと思うんですね。あと、動画や映画を見て楽しい時間を過ごすのは、自分を大切にするることにつながりますし、いいと思います。他のお母さんとの交流に行ければいいけど、できないならネット上の仲間と喋って、悩みや困りごとを共有するのもいいことだと思っています。

(二) そうだね。だからお父さんがお母さんの話を傾聴することが大事だと思うね。お父さんってすぐ解決策を言っちゃうんだよ。それがもう見えないんだっいたらなら、話しても無駄だと思ってっちゃう。これは男性側の社会生活の上でそういうことやってますからね。」そんなグダグダ言っても仕方ない」って思っちゃうのね。でも、奥さんは聞いてほしいのね。自分の不安感を共有してほしいんだろうけど、うまくできない。

―その気持ちはよく分かります。理屈では分かるんだけど。会話する時に、ちょっとずつでも進めたいところなんですよね。

(ゴ) できたらね。「そんなん言っても仕方ないじゃない」って言うっちゃう。で、奥さん側としては「そんな風に言うなら、もう相談しない」って話になっちゃって。これはどこの家庭も多分あるんじゃないかなと思う。

―そうですね。そこはぜひ乗り越えていきたいところではありますね。

(す) コミュニケーションの方法が男女で違うから、男の人は女の人が求めている方法に合わせる努力をもらった方がいいし、女の人も男の人のやり方に慣れた方がいいんじゃないかな。

(ゴ) プラカードとか作ったらいんじゃない？表は「聞いてほしい」で、裏は「解決策を教えてください」とか。それ見たら、どうしたらいいかさぐわかる。(笑)

―夫婦だったら気づいてほしい！(笑)

(ゴ) それか、赤黄青とか色付けてね、赤なら超緊急性ある話とか。これは他愛もない話だとか(笑)

(す) 他愛もない話だっていうプラカード出したら、全然聞かないですよ。(笑)

―昔ある番組でイエス・ノー枕っていうのがありまして、枕の表裏で「今日はただ話を聞いてくれたらいい日」とか「今日は本当に困ってるから解決策も示してほしい日」を決めておくっていうのがありましたね。枕はどうですか？難しいかな。

(ゴ) これね、まあ簡単に言うと困ってんだよ(笑)

―そうですね。困ってますね。「こっちは言わなくても分かってくれほしいとか、察してほしいです、すし、夫側も言わなくてもわかってほしいのかも。

(ゴ) お母さんって相談できる方が多いと思うから、僕はお父さん達を助けたいな。

―曰下先生が香大でお父さんのサークルをつくるとか？

(ゴ) 本当は作りたいね。一番したい。なぜかっていうと、家庭でお母さんを支えるのはお父さんだからね。でも、お父さんはその不安なことを言うところがないんですよ。仕事を一生懸命やっていて、泣きたいぐらいなわけ。でも家では泣けないし、仕事はしないといけないし。本当に心の内を語れる場所があるんですよ。だから、僕はお父さんチームの代表として、お父さんを支えてあげたい。

―ぜひ支える場を―

―鈴木先生のいろいろと悩みを抱えているお母さん達のグループと一緒に、何かこう接して話し合いみたいな、理解する場みたいのがあるといいかなっていう気はしますね。

(す) そうですね。子育て相談も九割以上がお母さんで、お父さんはほんの少しです。

(ゴ) もう、お父さんとお母さんでね、ドッジボール大会とかしたらいいんだよ。(笑) 言葉のドッジボール大会(笑)で、お父さんは前とか後とか横からやられるんだけど、お母さんには前からしかできないとか。(笑)

―男性側にハンデを付けるわけですね？(笑)

(ゴ) (ゴ) そうそう。お父さんは「お父さん」として認めてほしいんだけど、どうアプローチしていいかわからないし、お父さんは孤独だからね。なかなか自分の子どもの問題とかを友達に話せないですよ。泣きながら喋るところはないですよ。

―女性の悩みや子育てのストレスって大変だと思いますが、その声はわりとラジオでも取り上げさせてもらって、皆んな気持ちなんだよって伝えられる場はあるんですけど、日下先生がおっしゃるように男性の不安とか内面に抱えているものってなかなか今の時代でも伝える場もないし、伝わってなかったことですよ。なので今日、知ることができて有意義でした。

まだまだ解決すべき事はたくさんありますし、その辺の声にも耳を傾けていきたいですね。男女がせつかく夫婦ですから、理解し合って充実した子育てをしていきたいと皆さん思っただけじゃありませんよ。この時間だけでは、まだまだ日下先生も話し足りないと思います。また、多くの女性が本当に辛い思いしてらっしゃる、その気持ちを理解することも男性の役目でもありますね。なんか勉強になりましたね。

―そうですね。日下先生、お忙しいと思いますが、ぜひパパ支援の何かを。

(二) (三) ぜひ、本当にして差し上げたなと思います。僕らの病院で入院されてるお子さんのお父さんにとつて、やっぱり子どもってというのは希望なんですよ。その子ども達が病気で将来どうなるか分からないっていうのは、お父さんにとっては不安感も強いしね。それを周囲に言いづらしいし、できない。弱い親父を見せるんじゃないかと思うけども、そうじゃなくてお父さんもね、人間だからそれは言うだけ言っちゃって、そこから出発すればいいと思う。そういう会をね、本当作りたい。もう子ども島に作ってもいいけどね。そうですね、お父さんキャンプ！

—なんかすごくいいかもですね。いいですね。

(二) (三) 勝手にね、そういうのやっちゃってもいいんじゃないですかよね。

(す) やりましょうかね？

—ぜひぜひ。そこにまた明るい未来が見えてくるかもしれないので。山下先生にはお忙しいと思うんですが、またぜひご登場いただきたいなと思います。

(二) (三) はい、今日はどうもありがとうございました。

—ありがとうございます。そして鈴木先生、何かお知らせがあれば。

(す) (十一月二十七日土曜日、十時から十二時、三木町役場となりの三木町防災センター二階で、ペアメンカフェとトリプルマフォローアップセミナーを同時開催します。発達障害のお子さん、不登校のお子さんを育てる親御さんが対象です。また今までトリプルマ前向き子育てプログラムを受講した方々の交流会もします。鈴木もいますので、是非おしゃべりに来てください。お申し込みは、親サポかがわのホームページ、セミナー案内から願います。

—はい、ぜひぜひ参加ください。今日はありがとうございました。

(二) (三) (す) ありがとうございます。